

アンモニア・モノエタノールアミンがゼロでもフルに還元剤を活用できる次世代型のカールリング料



誰でも狙ったカールが出せる秘密は「ピュアシステアミン」

パーマが苦手な理由に「テストカール」を挙げる美容師は多い。その理由は、テストカールのカールの形状と、仕上がりの形状にギャップが出るからだ。株式会社ナンバースリーよりリリースされている「tocorme zero CURL(以下、トゥーコスメゼロカール)」は、テストカールでのカール感と、仕上がりのカール感にギャップがないという。その秘密を同社研究開発部の中西氏はこう説明する。

「簡単に言うと、還元成分の浸透と反応を分割して作用させたことにあります。そのため施術には、還元成分を浸透させる工程に加え、還元成分を反応させる工程の2プロセスがあります(図①を参照)」

ちなみにここには「ブースター」という還元促進剤を使ったプロセスが加わるが、中西氏によれば「それでも全体の施術時間は10分以上短くなる」そうだ。

同製品にはまだまだ工夫がある。そのひとつである還元成分について同社・有澤研究員が解説する。「通常、システアミンは、塩酸塩などと結合した状態で剤に配合し、成分の安定性を保ちます。ただ、これだと、どうしても残臭が強くなってしまいます。」

そのため、塩酸塩を外してもシステアミンを安定化させることが長年の課題でした。それが今回、特殊な電解技術を使うことで可能になったんです」

同社では、この成分を「ピュアシステアミン」と命名した。実はこの「ピュアシステアミン」、すぐいのは残臭の軽減だけではない。

一般に、システアミンはアルカリでよく作用すると言われている。これに対して、塩酸塩などが結合したシステアミンのpHは、8.4程度。これだと配合していたシステアミンの約50%しか作用しないという。

そのため通常は、アンモニアやモノエタノールアミンなどのアルカリ成分を配合することでpHを上げ、システアミンの浸透や作用をアップさせている。

しかし、これだと毛髪へのダメージが高くなってしまっている(図②を参照)。実は、先ほどの特殊技術でシステアミンの塩酸塩を外すと、pHが9.6まで上がります。この領域だと、アルカリ剤(アンモニア・モノエタノールアミン)がゼロでも十分に浸透させることができるんです(中西氏)製品名に「ゼロ」が入っている所以は、まさにここにと。ここに先ほどの「ブースター」が加わると、さらなる作用が起きると、有澤氏は付け加える。

「『ブースター』に配合の炭酸グアニジンなどの効果で、pHが10.7まで上がると、この値までくると、剤の中にあるシステアミンの実に約80%が作用できます(図②を参照)。確実に狙ったカールができるのは、このように還元成分をフル活用できるからなんです」

おまけに「全ラインナップ」に、酸熱系トリートメントでおなじみのレブリン酸も配合。つまり、システアミンのS-S結合とレブリン酸のイミノ結合のダブルの架橋効果が期待できるわけだ。ちなみに今年の3月にはシリーズにストレート用のジェルタイプもそろった。

髪に負担なく、カールからストリートまですべてに対応可能な「トゥーコスメゼロ」シリーズ、次世代のカールリング料の標準になることは間違いない。



研究開発部 係長 中西 京介

トゥーコスメゼロ



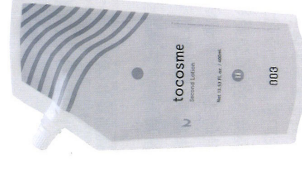
カールハード/62
●容量400mL
●主な配合成分：ピュアシステアミン*



カールメディアム/54
●容量400mL
●主な配合成分：ピュアシステアミン*



ブースター
●容量400mL
●主な配合成分：炭酸グアニジン、アルギニン、レブリン酸、リジン、尿素



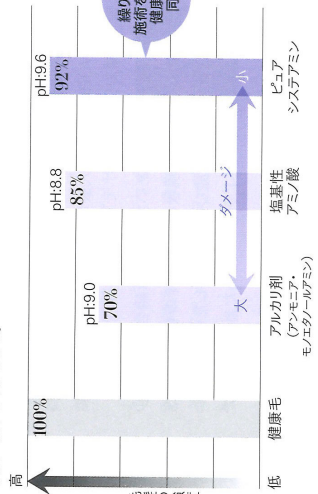
セカンドローション
●容量400mL
●主な配合成分：真塩酸塩、マカデミアナッツ油、メドウワオーム油、アボカド油、シア脂油、ホホバ種子油、ツバキ油、ブドウ種子油、月見草油、カナバハラ果実油

図① トゥーコスメゼロカールのベシックスステップ

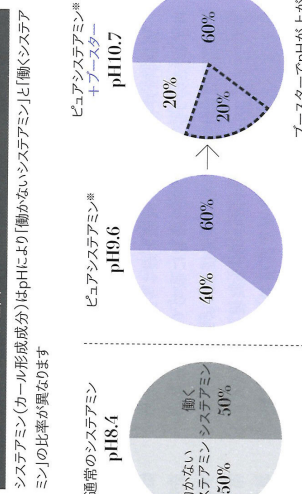
1. カウンセリング
ダメージ度合い、しかり髪種別を
2. プレシャンプー
3. ワインディング
4. トゥーコスメゼロカール塗布(80ml〜)〜プロセスタイム
しかり髪種別、3〜5分放置
5. 中間水洗
セット面にてブリーチャーでOK
6. ブースター塗布(原液60ml)
5分放置
7. テストカール
リングが十分な場合は、放置タイムを延長するか、加温して大丈夫
8. トゥーコスメゼロセカンドローション塗布(80ml〜)〜プロセスタイム
1度付け置き、10分放置
9. ロッドアウト
10. プレーンリンス
11. 仕上げ

図② ダメージの原因は、pHの高さではなくアルカリ成分の種類だった!

下の表は、健康毛の毛髪強度を100%とした場合、使用したアルカリ成分ごとに毛髪強度がどのように変化するかを見ています。ちなみにアルカリ成分にはそれぞれpHも表示、これを見ると、pHの高さよりも、使うアルカリ剤の種類によって毛髪強度が変わるのがわかります。



図③ アンモニア・モノエタがゼロでも、しっかりとかかる理由



トータル5〜10分時短